

新小岩北口の まちづくりについて



日時

令和6年11月5日（火）午後1時25分～3時55分

説明会場

コモレ四谷 スポーツスクエア R会議室

見学場所
（見学順）

- ①コモレ四谷（市街地再開発事業）
- ②三栄通り（道路空間の改善）
- ③しんみち通り（一部制限が緩和となる街並み誘導型地区計画）

参加者

18名（加入件数：29件※令和6年11月5日時点）

当日の
様子
（見学等の順）



新宿区より説明等



コモレ四谷の見学



防災設備の見学



三栄通りの見学



しんみち通りの見学



見学した感想の共有等

見学した
主な感想

災害情報の発信もできる
デジタルサイネージ

<コモレ四谷（市街地再開発事業）について>

- ・パブリック空間や防災設備が備わっている点が参考になった。
- ・緑の多さや広場、歩行者空間の豊かさに驚いた。
- ・新小岩で同様のパブリック空間を整備すると、ゴミ対策が必要になると感じた。



三栄通りとコモレ四谷の
歩道状空地に一体感のある
パブリック空間

<三栄通り（道路空間の改善）について>

- ・無電柱化に伴い、空を広く見ることができ、開放感があった。
- ・一方通行化や駐車スペースの確保の方法が参考になった。
- ・歩行者空間が十分に広くゆとりをもって歩くことができた。



地区計画に基づいて
建て替わった建物

<しんみち通り（一部制限が緩和となる街並み誘導型地区計画）について>

- ・地区計画の効果はわかりづらかったが、趣きがある通りだ。
- ・道路上に立て看板が多く設置されており、歩きづらかった。
- ・目指すべき拡幅された通りになるには、時間を要すると感じた。

四谷駅周辺地区に関する追加質問と回答

Q.1

平成19年発足の四谷一丁目北地区まちづくり勉強会が、平成21年に四谷一丁目北地区協議会へ移行した経緯やきっかけは何か？

A.1

地区計画の制度について勉強会を実施し、その中で街並みを守りたいとのご意見があったことから、地区計画を紹介したことがきっかけです。その後、平成21年に四谷一丁目北地区協議会を発足し、地区計画について詳細に検討を開始しました。（新宿区より）

Q.2

四谷駅前地区（再開発事業）について、平成17年に権利者を対象に再開発について勉強する勉強会を設立後、平成18年に四谷駅前地区再開発協議会へ移行した経緯やきっかけは何か？

A.2

市街地再開発事業による駅前の顔づくりの検討を進める地権者の組織として勉強会を発展的解消し、平成18年に四谷駅前地区再開発協議会を設立しました。当地区では大規模地権者として財務省がいたため、財務省や行政との交渉をスムーズに進めるためにも勉強会ではなく、協議会という形で組織化を行っております。（UR都市機構より）

四谷駅周辺地区に関する追加質問と回答

Q.3 UR都市機構が四谷駅周辺地区のまちづくりに関わった経緯や理由は何か？

A.3 平成14年に財務省四谷宿舎廃止の発表と新宿区の四谷第三小学校の統廃合の検討が開始され、新宿区からUR都市機構に跡地利用の検討依頼があったのがきっかけです。（UR都市機構より）

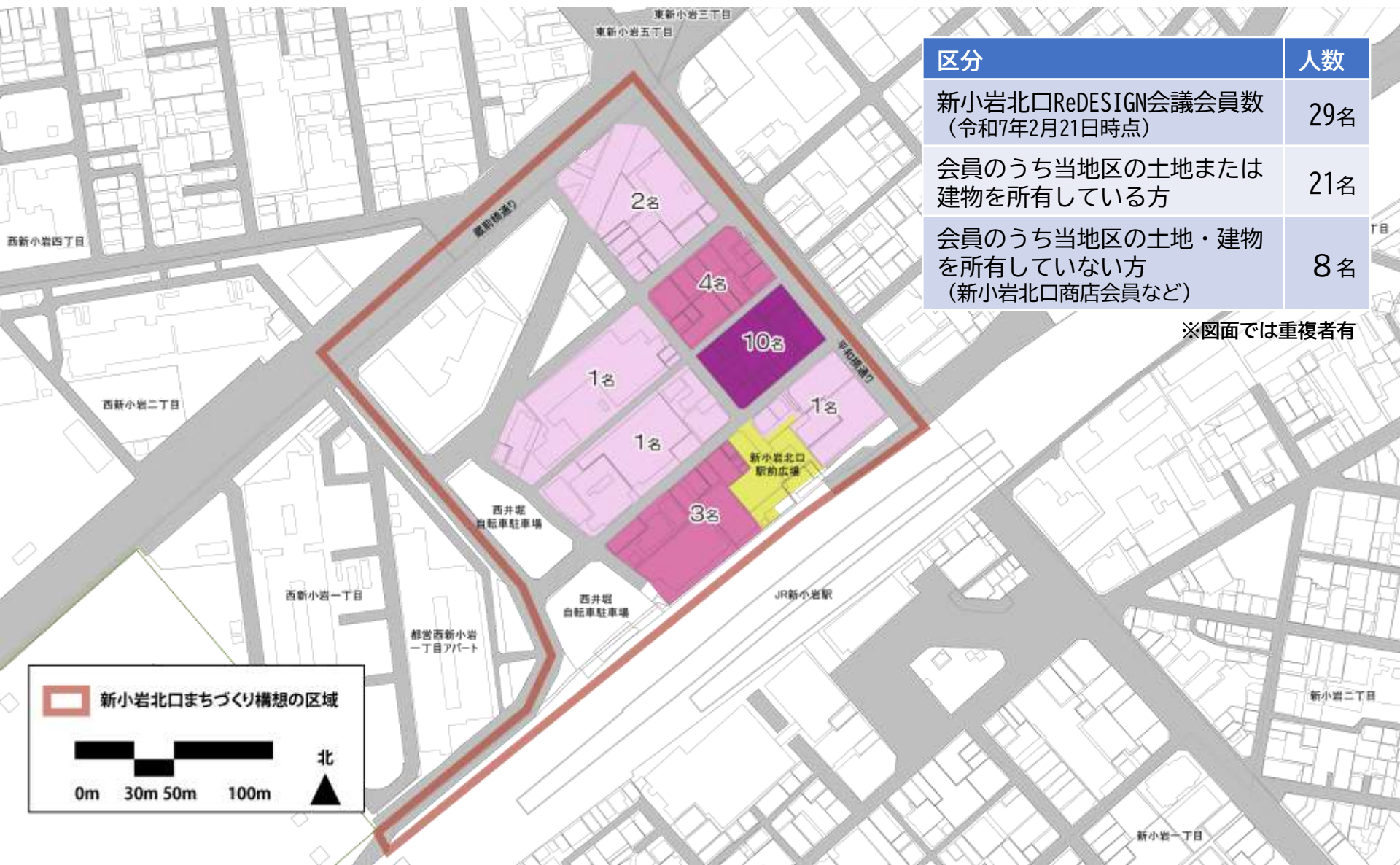
■参考：地元協議会の対象区域
（出典：新宿区）



参加状況

(ReDE会会員の分布)

- 新小岩北口ReDESIGN会議会員は2つの街区を除き地区全体に分布しており、平和橋通り沿道の街区に多く見られる。
- 特に北口駅前広場の北東の街区は、会員数が10名と最も多い。



ゾーニング

■当地区は、高度利用が一般的に想定される幹線道路沿道街区（青色）、駅前街区（ピンク色）の他、地区内側街区（緑色）に区分することができる。

